

安全かつ早期の処理完了に向けた市の主な取組み

平成 28 年 7 月 北九州市環境局

1. 処理の安全性確保

P C B 廃棄物の収集運搬を行う際には十分な体制で安全を確保することが必要であることから、昨年度に引き続き、P C B 廃棄物輸送路（「若戸大橋」「響灘東地区道路」）の改修・補修工事を実施する。

【工事の概要】

「若戸大橋の改修」：鋼床板の改修、補剛桁の補強等（10 月～）

「響灘東地区道路の補修」：轍や割れ等のアスファルト舗装の補修等（7 月～）

2. 期間内での確実な処理

北九州 P C B 廃棄物処理事業の対象地域に、処理期限までに確実に処理が完了する取組みを徹底させる必要があることから、対象地域の自治体に対して、西日本広域協議会等を通じて P C B の安全かつ一日も早い処理完了に向けた取組みの徹底を要請する。

【西日本広域協議会の概要】

「参加自治体」：豊田、大阪、北九州事業エリアの 27 府県・41 市

「開催日」：8 月 10 日予定、「開催場所」：北九州市立商工貿易会館

3. 地域の理解

市民に対する情報公開や地元との積極的な交流等を進めていく観点から、既設の情報発信拠点施設や専用ホームページ等を活用して情報発信を行う。また、北九州 P C B 廃棄物処理施設をはじめ市内の環境関連施設を見学するバスツアーを昨年度に引き続き実施する。

【バスツアーの概要】

「見学施設」：P C B 廃棄物処理施設、自動車リサイクル工場、シャボン玉石けん工場

「開催日」：8 月 24 日予定

4. 取組みの確実性の担保

本市における P C B 廃棄物の処理の安全確保に万全を期すため、環境保全協定を改定して、取組みを確実に担保する。

【環境保全協定改定の概要】

「新たに安全操業を常時確認するための資料の提出」「排ガス測定結果が協定値や管理目標値未満でも異常を検知した場合は直ちに報告」など報告徴収を強化

5. 市内に残る低濃度 P C B 含有機器の処理

市内の低濃度 P C B 含有機器について、平成 30 年度中を目途に保有状況の把握、平成 33 年度末までの処理完了に向けて、計画的に市内の低濃度 P C B 含有機器等保有事業者に対する「掘り起こし調査」を実施する。

【H28 年度 掘り起こし調査の概要】

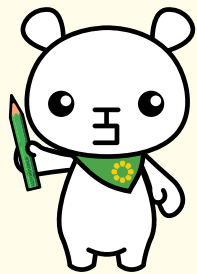
「調査対象」：市内で事業活動を行っている事業所のうち未調査事業所（約 17,000 所）

「調査方式」：アンケート調査方式

「調査内容」：低濃度 P C B 含有機器保管の有無、保管・使用場所、機器の詳細等

トピックス

北九州PCB処理事業所における排気中ベンゼンの協定値超過事案について(報告)



- 本事案について検証を行い、JESCO・環境省・市の三者が一体となった再発防止策を取りまとめました。
- 現在、JESCO・環境省・市の三者で、再発防止策の取組と進捗状況を協議・確認し、対策の徹底を図っています。
- 今後は、関係者が一丸となった体制を再構築することで、二度とこのようなことが起こらないよう、処理の安全確保に万全を尽くしてまいります。

経緯

- 平成27年10月14日: 市が北九州PCB処理事業所において排気サンプリングを実施
- 平成27年10月30日: 市においてベンゼン濃度が環境保全協定値の超過を確認
- 平成27年11月13日: JESCOが本事案の原因調査結果等について市に一次報告
- 平成27年11月～12月: 市が北九州PCB処理事業所に立入検査を実施
- 平成28年1月27日: JESCOが本事案の原因調査結果と再発防止策に関する報告書を市に提出
- 平成28年2月3日: 精査の結果、市からJESCOに対して報告書に則って適切に対応するよう指示



I. 検証結果

…ベンゼン協定値超過事案を受けた総合検証により明らかになった安全対策上の課題

設備面

- 排気中の油分・ベンゼンに対するセーフティネットを含む多段階の処理の不備(1期・2期施設の計2箇所)

管理運用面

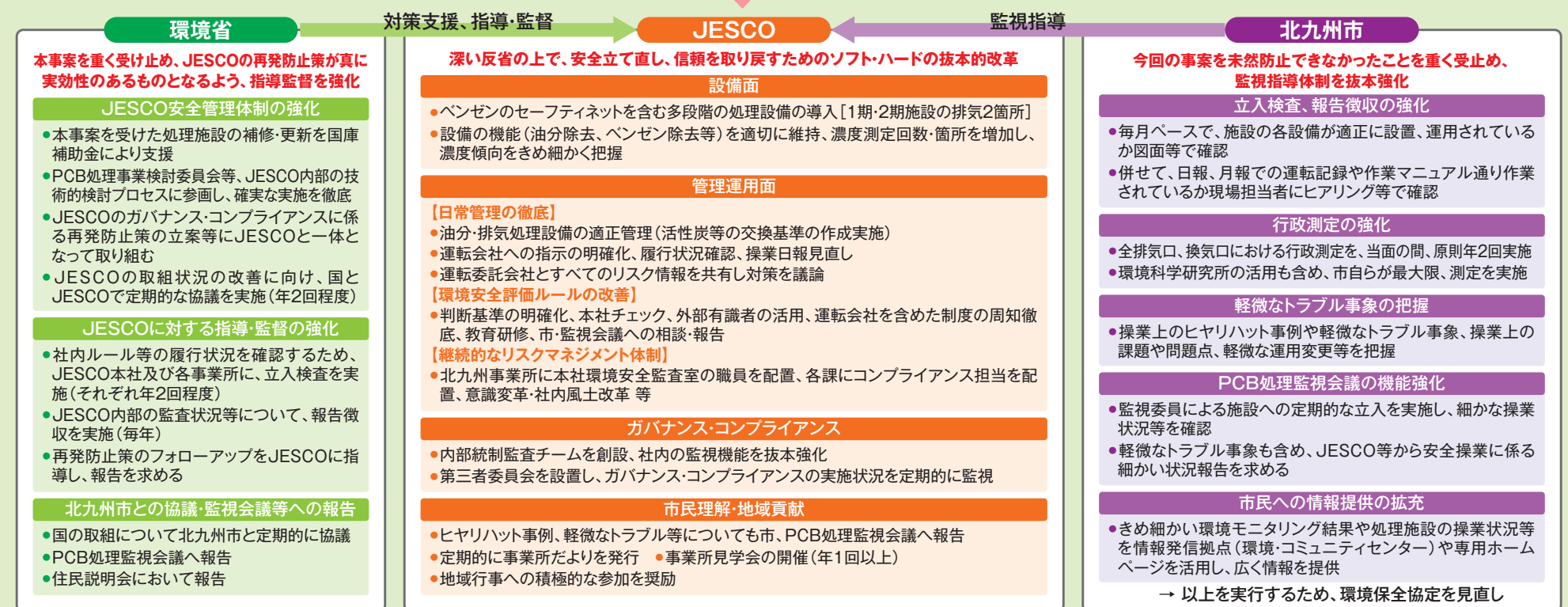
- 異常対応時の設備管理が不明確(活性炭等)
- 運転会社への指示が不明瞭
- 履行状況を未確認
- リスク情報の把握共有の不徹底
- 環境安全評価が未実施、本社の把握・検討体制の不備 等

その背景にある意識等の課題

- ベンゼンに対するリスク意識やPCB処理事業立地・延長の経緯の理解・認識不足
- 社内の意思疎通・危機管理体制が不十分
- 組織的・体系的な社員教育体制が不十分 等

II. 再発防止策

…二度とこのようなことを起こさないための方策



■ 本事案の再発防止に向けたJESCO、環境省、市の取組みの方向性について「PCB処理監視会議」で議論を行ったほか、「市民説明会」を開催して意見をいただきました。

PCB処理監視会議(平成28年1月21日、13時～16時30分、傍聴者36名)

監視委員から、本事案の説明に対して、

- 改善策を機能させるために判断する人や仕組みが重要である。
- 今後は施設における軽微な事象も監視会議に報告すべき。
- 今回の件で一番の問題点は、何が入ってどれだけ量があるかという事を把握せず、最終的に出口だけの分析結果だけに基づいて行った点。等の指摘がありました。



市民説明会(平成28年1月21日、18時30分～20時30分、参加市民67名)

参加市民から、

- 本事案の責任問題をはっきりとさせるべき。
- JESCOの社内構造とリスク管理体制を再構築すべき。
- 測定地点の増加等を行い、市の環境測定を強化すべき。
- 安全問題は延長受入条件の一丁目一番地だ。等の意見をいただきました。



安全対策

PCB廃棄物の輸送中の事故を防止するため、輸送路（若戸大橋・若戸トンネル・臨港道路響灘2号道路）の補修・舗装工事を行いました。



今後も、輸送路の安全確保に向けて、補修工事及び維持管理を行ってまいります。



「臨港道路響灘2号道路」（響灘大橋北側部分）の補修工事



「若戸トンネル」のカラー舗装工事



「若戸大橋」のカラー舗装工事

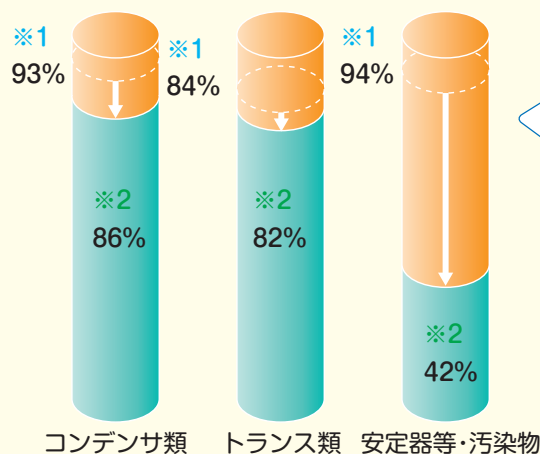
早期処理対策

北九州事業エリア分は約9割処理完了。他の事業エリア分については、長期処理計画に沿って計画どおりに処理を進めています。

● 処理の進捗

PCB廃棄物処理の進捗状況

（平成27年12月時点）



長期処理計画の処理目標

- コンデンサ（東京事業エリア分）
→ 平成28年度末まで
- 車載トランス（豊田事業エリア分）
→ 平成30年度末まで
- 安定器等・汚染物（大阪及び豊田事業エリア分）
→ 平成33年度末まで

※1 従来の処理対象地域である岡山以西17県分の進捗率
※2 新たに処理対象地域となる東京事業エリアのコンデンサ（約7,000台）、豊田事業エリアの車載トランス（約111台）、大阪及び豊田事業エリアの安定器等・汚染物（約4,000トン）を含む進捗率

● 「北九州PCB廃棄物処理事業に係る

西日本広域協議会」を開催（68自治体が参加）

関係自治体における早期処理に向けた取組内容や進捗について確認するとともに、早期の処理完了に向けた取組の強化を要請しました。



協議会風景（平成28年1月26日）

北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議委員との意見交換

北海道PCB処理事業における監視活動の取組みを参考とし、北九州市PCB処理監視会議の今後の監視活動に生かしてまいります。

「早期かつ計画的なPCB処理の推進方策」・「地域住民の理解に向けた取組」を議題として、掘り起こし調査に係る対策や、監視会議時や住民にも分かりやすい説明方法、工夫点等について本市PCB処理監視会議委員が意見交換を行いました。今後も、定期的に情報・意見の交換を行い、PCB廃棄物の安全かつ早期の処理推進に向けて、連携を図っていくこととしました。



意見交換会風景（平成28年1月21日）

北九州市環境・コミュニティセンターの情報発信機能の充実

常に最新のPCB処理に関する情報を見ることができるよう展示内容を充実し、今後もきめ細かでわかりやすい情報を発信してまいります。

センターには、PCB輸送車両の運行状況をリアルタイムで監視できるGPSや、PCB処理の進捗・安全対策情報を紹介するモニターやパネル等を設置して、PCBに関する情報を発信しています。このたび、

- PCB処理の進捗状況や環境モニタリング結果データを最新情報に更新
- PCB処理物や処理期限など事業概要が確認できるパネルを設置
- PCB処理監視会議や西日本広域協議会の会議資料を設置

しました。今後もセンターにおいて、PCBに関する様々な情報を発信してまいりますので、是非ご来場ください。

